



←ビーズのブレスレットを作る子どもたち。様々な色や形のビーズから好みのものを選び、配列も工夫し、世界にひとつのブレスレットが完成しました★

→タイムカプセルと手紙、ブレスレット。中に写真や当時の公民館だよりなどの思い出を詰め込んで、ネジで固く閉じます。今から開封が楽しみです★



これまで農業体験や職業体験など、さまざまな活動に取り組んできた「わくわく社会体験」。2月28日、今年度の最終回を迎えました。

最後のプログラムは「タイムカプセルづくり」。未来に向けた手紙と、未来の自分へのプレゼントとしてブレスレットを作りました。

手紙は、未来の自分や大切な人を思い浮かべながら、それぞれが心を込めてペンを走らせていました。

ブレスレットづくりでは、ビーズの色や並べ方に悩みながら挑戦。途中でビーズをこぼしてしまうハプニングもありましたが、最後まであ

きらめずに取り組み、個性あふれる素敵な作品が完成しました。

手紙やブレスレット、写真などの思い出の品を詰め込んだタイムカプセルは、参加者みんなで話し合い、3年後に開封することに決定。少し早めの再会が、今から楽しみです。

今年度6年生の皆さんは、この講座を卒業しますが、「ジュニアリーダーとして参加したい」という頼もしい声も聞かれました。成長した姿でまた会える日が待ち遠しいですね。

来年度はどんな体験が待っているのでしょうか。これからの「わくわく社会体験」も、どうぞお楽しみに。

# 公民館だより

TOYOSATO COMMUNITY

## 親子で楽しく食育クッキング



にんじんは固いから一緒にね★



菜箸も上手に扱えました♪



栄養士の皆さんが見守りながら

登米栄養士会地域活動部会との共催事業「おやこ健康クッキング」を3月7日に開催し、未就学児の親子4組が参加しました。

今回はお弁当づくりに挑戦。メニューはメキシコ料理の「タコライス」と、「フルーツヨーグルト」です。

はじめに栄養士の皆さんから「毎日元気に、食事のポイント」と題したお話があり、食事の大切さや減塩について学びました。

食品ごとの食塩量を示したイラストを見ながら、普段の食事についての塩分が含まれているのかを楽しく確認しました。

その後、調理がスタート。人参など少し硬い食材を切る場面では、親子で協力しながら輪切りやちょう切りに

挑戦しました。ひき肉や卵を炒める工程でも説明をよく聞き、熱々のフライパンも上手に使って調理しました。

盛り付けでは、ごはん、そばろ、炒り卵を層のように重ね、ハートやお花、星形に型抜きしたチーズや人参、トマトを飾ってカラフルに仕上げました。

やわらかいフルーツは子どもたちが自分でカットする場面もあり、「上手にできたよ!」と笑顔が見られました。

親子で協力しながら楽しく取り組み、春らしく華やかなお弁当が完成。お弁当はテイクアウトし、それぞれの家庭で味わっていただきました。

今回の体験が、家庭で食事や食育について考えるきっかけになれば嬉しく思います。

### 佐藤造園設計所さん



ありがとうございました

平筒沼農村文化自然学習館の敷地内にある「藤棚」を、佐藤造園設計所代表の佐藤義彦さん（二ツ屋）のご厚意により剪定していただきました。

この藤棚は、学習館を訪れる皆さんの憩いの場となっています。春には桜を眺めながら、ゆったりと休憩できる心和むスポットです。

四季折々の自然を感じに、ぜひ平筒沼農村文化自然学習館へお越しください。

平筒沼農村文化自然学習館  
【住所】豊里町久寿田64-1  
【電話】0225-76-0071



### 4月の行事予定

日時	行事内容	場所
10日(金) 14時00分	花いっぱい運動 芝桜配布 (町内会対象)	公民館裏 駐車場
19日(日) 10時00分	囲碁・将棋サークル①	公民館 研修室



# 大きくなって帰っておいで



バケツからサケの稚魚を優しく流す子どもたち

## サケがっなぐ 伝統と命の学習

豊里町を流れる旧北上川には、毎年たくさんのサケがふるさとの川をめざして帰ってきます。鵜波洗堰や脇谷洗堰では「叉手網（さであみ）」という伝統的な網を使い、熟練の技でサケを捕まえる漁が受け継がれてきました。

公民館は、北上川漁業協同組合、豊里教育事務所、豊里小・中学校と協力し、豊里小学校5年生の皆さんを対象に、サケの捕獲から稚魚の放流までを見学・体験する学習活動を毎年行っており、公民館事業としては今年で8年目を迎えました。

## みんなで見送る 小さな旅立ち

実際に見て、ふれて、体験することで、子どもたちは自然と命のつながりやその大切さを学びます。この活動は、ふるさとの川を愛する心を育て、自然や環境を守ろうとする気持ちを広げる大切な取り組みとなっています。昨年11月にはサケの捕獲の見学や採卵の体験を行い、2月17日には、いよ

いよ稚魚の放流を行いました。当日は水辺の公園に集合し、北上川漁業協同組合の佐々木武雄代表理事組合長から説明を受けた後、川へ12万匹の稚魚を放しました。放たれた稚魚がキラキラと輝きながら元気に泳いでいく様子を見守り、子どもたちはほっとした表情と笑顔を浮かべていました。



事前説明を聞く様子



漁協組合長の佐々木さん(右)



水槽で放流を待つ稚魚



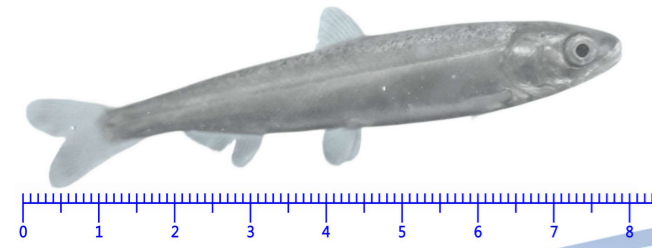
雨どいを改造した放流装置



稚魚を流す児童たち「いってらっしゃい！」



## 放流した時点の原寸大(約8cm)



北上川漁業協同組合・北上川漁業協同組合豊里支部  
豊里公民館・豊里教育事務所・豊里小・中学校

# 北上川って、どんな川？ -歴史と防災を学ぶ-

2月21日、豊里公民館にて、北上川の歴史と防災について学ぶ講演会を開催しました。講師には、国土交通省 北上川下流河川事務所の渡辺昭光さんをお迎えし、写真や図を交えた資料をもとに、わかりやすくお話いただきました。



会場には約100人が集まりました

## 川村孫兵衛の功績

江戸時代、北上川・江合川・迫川は大雨のたびに洪水が発生し、仙台平野北部は米作りに適さない土地でした。そこで初代仙台藩主の伊達政宗は、水害を防ぎ、石巻港へ通じる水運を整備するため、家臣の川村孫兵衛重吉に河川改修を命じました。



川村孫兵衛銅像(日和山)

孫兵衛は1616年から北上川の大改修に着手。新たな水路の開削や川の付け替えを行い、急

流だった川を蛇行させて流れをゆるやかにしました。

これにより、船が通りやすい水路が確保され、洪水時にも川岸が削られにくくなり、田畑を守りながら新田開発を可能にしました。

その結果、仙台平野北部は米の生産量が大きく増え、石巻は米の集積地として発展する基盤を築きました。

## 近代の改修事業は

1911年(明治44年)から始まった北上川第一期改修工事(1911~1934年)では、柳津から飯野川までの新北上川の開削や、迫波川の拡幅による放水路整備が行われ、広い地域で水害が軽減されました。また、迫川下流沿岸の原野も開発可能となりました。

1932年(昭和7年)に完成した鵜波洗堰と脇

谷洗堰は、流量を調節する「オリフィス」を備えた日本唯一の分流施設です。

歴史的・文化的価値が高く、土木学会の選奨土木遺産にも認定されています。

洗堰完成後、約70年が経過した、1996年から2008年にかけて鵜波水門・脇谷水門が整備され、旧北上川沿川の治水安全度は飛躍的に向上しました。

## 新たなまちづくり

石巻市は川沿いに市街地が発展してきました。川と暮らしが密接に結びつく一方で堤防整備が十分ではなく、東日本大震災では津波が旧北上川を遡上するなど、甚大な被害をもたらしました。

震災後は、市と国、市民が連携して「かわまちづくり」を推進。川沿いに整備された堤防や「いしのまき元気いちば」、「石巻かわまち交流センター」には多くの市民や観光客が訪れ、防災と交流の拠点となっています。

## これからに向けて

近年は気候変動の影響で、台風や局地的豪雨、線状降水帯による

大雨など、全国で被害が相次いでいます。

それらを防ぐためには、河道の掘削や堤防のかさ上げ、遊水地の整備など、流域全体で取り組む「流域治水」の考え方が重要です。

山林の保全や「田んぼダム」など、地域のできる取り組みも各地で進められています。

気候変動が続く今、私たち一人ひとりにできる備えは何か、万が一のときにどう行動すべきか。今回の講演会は、先人の知恵と防災について改めて考える貴重な機会となりました。



講師の渡辺昭光さん

質疑応答では、北上川に関することや気候変動が生活や水環境に与える影響などについて多くの質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

「改めて北上川の大切さを感じた」「勉強になった」といった声も聞かれ、有意義な学びの時間となりました。